

編集後記

『戦史研究年報』第25号をお届けします。

本年が太平洋戦争開戦80周年であるので、巻頭の「口絵」では、開戦に関連する日本陸海軍の史料を紹介しました。

「論文」では、戦史研究センターに所属する研究者による令和2年度調査研究成果の中から3本を掲載しました。樋口論文は、日本陸軍における騎兵の役割と特性を中心に考察し、最終的に兵種として騎兵が廃止になった経緯を論じたものです。岩佐論文は、アメリカの在日軍事援助顧問団(MAAGJ)が戦後日本の再軍備においてどのような役割を果たしたのかを分析したものです。日田論文は、陸上自衛隊の方面隊が誕生し、方面管区体制に発展した過程について考察したものです。

「紹介」では、オランダのコーツ財団による戦史叢書『蘭印攻略作戦』の英訳および公開の完結について紹介しました。

「研究会記録」では、オハイオ州立大学ピーター・L・ハーン教授が発表された研究会の記録を掲載しました。第二次世界大戦後、間断なく継続したアラブとイスラエルの対立が1956年、1967年、1973年において国際的な武力紛争に拡大した過程を分析したものです。

「国際会議参加報告」では、ギリシア・アテネで開催された第46回国際軍事史学会大会の概要の他、同大会で伊藤研究員が発表した論文(英文)を掲載しました。発表は、戦後におけるイギリス帝国の解体後も各地に残った同国の一定の影響力と現代の安全保障上の課題の関連について論じたものです。

「活動報告」では、令和3年に戦史研究センターが実施した諸活動、戦後史関連の戦史史料編さん事業の概要、史料閲覧室の閲覧状況等を掲載しました。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(進藤 裕之)